

# 学生目線からの学科Webサイト像と閲覧の現状

－ 学生が構築する視野における学科Webサイトの将来像と学びの理解の関連性 －

青地 克頼\*<sup>1</sup> 佐々木 弘子\*<sup>2</sup> 須永 美幸\*<sup>3</sup> 池本 真二\*<sup>4</sup>

## A Study of the students' perspective university departmental websites

Relation between a future of university departmental websites in a view build by students  
and comprehension of the learning

*AOCHI, Katsuyori, SASAKI, Hiroko, SUNAGA, Miyuki and IKEMOTO, Shinji*

### 要旨

目的：大学生の視野による学科Webサイトの構築を将来像とし、現在のWeb閲覧の現状を鑑み、学科学生の資質としての学びの理解について検討することを目的とした。対象：本学人間栄養学科2016年次1年生とした。

方法：アンケート形式により学科Webサイトの重要項目を検討、学びの理解との関係を調査した。

結果：学生目線の学科Webサイト像は、管理栄養士国家試験、栄養教諭などの資格取得、入試日程、就職先情報、学科紹介サイトを重視する傾向であった。大学院の進学情報、教員紹介、卒業論文、研究室紹介については、その重要度は中程度であった。カテゴリカルな主成分分析により解析した結果、第1主成分は、正の成分として学びの全体像、授業の紹介、就職先状況等に集約され、説明分散は47.3%であった。積極的HP閲覧意欲である第1主成分得点と学びの理解の関係は、管理栄養士という職業に就くことを誇りに思い、大学教育の理解の意識、グループワークでの積極性・協調性の意識に相関が認められた。これらより、学びの理解評価の高い学生は、学科Webサイト構築について有用であるとの知見を得られた。

### キーワード

大学生、学科Webサイト、ホームページ、カテゴリ主成分分析、HP閲覧意欲

### Abstract

Purpose: Build of departmental websites in a view of the university student is a future image and the purpose is to deliberate comprehension of the Learning as a resource of the department student in view of a present state of browsing of the present web. Subject: Freshman students of the year 2016 in the Human Nutrition Department. Method: Important items in the departmental websites are deliberated by a questionnaire format and the relationship between understanding of learning was investigated. Result: From the students' perspective, university departmental websites often emphasize admission schedules and employer information, for example, information on obtaining credentials for nutrition teachers or the national examination for registered dietitians. The importance placed upon university enrollment information, faculty introduction, graduate theses, and laboratory introduction is moderate. Based on results of the categorical principal component analysis (CATPCA), the primary principal component converged around the overall impression of learning, class introduction, and places of employment, as a positive component, and the explanatory variance of the first factor was 47.3%. According to the correlation between the principal component score of the primary factor, which indicates active HP browsing intent, and awareness of the comprehension of the Learning, a connection was found between pride of working as a registered dietitian, awareness of understanding university education, and awareness of drive and cooperativeness in group work. Thus, knowledge was acquired that students with high understanding evaluation are useful for build of the departmental websites.

### Key words

university students, university departmental websites, homepage, CATPCA, HP reading desire,

## I. 緒言

大学におけるWebサイトの運営については、C大学では、「Webサイトを、無限の可能性を秘めた大学変革ツールとして最大活用する」とし、「コンテンツ充実と情報発信者の拡大、大学の未来を拓くサイトへと」のスローガンを掲げている。Webは進化す

るものとして捉え、「幹と枝」の剪定の時代から「花と葉」の時代となり、各学部・部署との情報共有・受発信システムの導入へと進化を示している。これらを通じて、各学部・部署が「花と葉」であるコンテンツを豊かに咲かせていくことができると論じている。大学内外にいる様々な関係する人々、つまり大学職員、教

\* 1：聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科・准教授／\* 2：聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科・教授

\* 3：聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科・教授／\* 4：聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科・教授

員、学生、卒業生、保護者、大学に関心を持つ一般・企業の方々といった「ステークホルダー」に、大学Webサイトは開放されていかななくてはならないと言われている。つまり利害関係のある人、団体が閲覧できるに耐えうる、インフラおよびWebコンテンツの構築が必要とされている。われわれの今までの概念では、高校生が受験サイトを見て入学を決定する、有力なツールとしてのWebサイトとのイメージが強いが、本学科に利害関係のある、例えば実習生の受け入れ先、就職先企業、学外研究者、在学生なども満足のゆく、コンテンツを将来像とする必要性は高いと思われる。

しかし現実問題として、本学科のWebの進化を考えると、本学科は「幹と枝」の剪定の段階である。当時の生活文化学科からの流れで作成されてきたが、昨年1月末に、全学が統一された形でWebのリニューアルが進んだ。その過程の中で、われわれは情報の受信者(顧客)の満足度が重要であることは言うまでもない。学科Webサイトについて、飼原壽夫(2013)は、想定する閲覧者別の提供情報の分類として、「社会責任のある公式情報発信の場」、「入学志願者とその父兄、進路担当者向け」、「在学生向け」、「卒業生向け」、「社会連携」、「企業・公共機関の関係者」さらにWebを活用した授業支援の枠組みとして、LMS (Learning Management System)を導入し、教職課程のカルテ管理などに利用していると報じている。本学科のHPは全学と関わる部分が多いが対外的側面では弱体であると思われる。現代社会において、多くの資料はWebからの情報で満たされてしまう。コンテンツの内容や記事の新しさなどが評価される時代であるが、単なる学科の紙媒体をそのまま、Webに掲載することでは、利用者の心を捉えるようなWebは構成されない。Web上の特徴を活かした、動画や適度のコンテンツの作りこみ技法も必要になることは周知の通りである。また、検索エンジン対策のための階層、さらにはタグの設定、SEO対策、リスティング、プロモーションなど様々な対応に迫られている。さらに学科Web管理者の視野に限界があり、本学1年生の学生目線からのWebに対する情報を得ることを目的とし、どのようなWebコンテンツを学生目線で求めているのかを明らかにするとともに、その学生達の資質を理解するために本研究を行った。また将来的には、学科サイトのアクセス数に満足するだけでなく、日経BPマーケティング(2016)による「全国大学サイト・ユーザビリティ調査」などの評価を受けることも必要である。

さらに、田村幸子(2011)は九州産業大学の公式サイトユーザビリティの現状の把握を学生目線により実施した。これらの報告によれば、自発的というよりは、必然的な問題提起であると述べており、大学のWebサイトは受信者が発信者となる必要があり、学生が構築する内容などの考慮も将来は必要であると述べている。これらを踏まえ本研究では、発信者になるべく本学科生の学びについての理解度は重要であると認識し、学科HP

の集約と学びとの理解度との関係を検討することを目的とした。将来的に学生のWebサイトへの発信を考えた場合、本学科に対する大学教育の理解度および管理栄養士像の向性は重要な要素ではないかと判断した。

## II. 方法

### 1. 研究のデザイン

学生目線からの学科Webサイトの構築について、本学科1年生に対して学科HPに対するアンケートを行った。さらに将来情報の発信源ともなるべく本学科生のHP重視情報の集約と学生の資質要因である「学びの理解度」との関係で大学教育の理解、カリキュラムの理解、自分の将来像、積極性・協調性、管理栄養士基本コンピテンシーと関連づけ検討することとした。現状のHPを把握するために2017年2月にスタートした学科HPの閲覧状況についてGoogleアナリティクスを利用し、ページビュー数を用い3月から8月について検討した。

### 2. 調査対象

本学人間栄養学科2016年次1年生165名

### 3. 調査方法

#### 1) 調査項目

設問1では、聖徳大学のホームページを受験前に見ましたか(地図のみの閲覧は含まない)をスマホ、PC、両方を機器ごとに質問した。

学科HPのコンテンツの重要度について、17の項目の設問に5段階方で、「あなたにとって、下記のホームページのコンテンツがあるをします、2～17の項目の情報を重視する度合いを、5段階で答えてください。とても重視するは5(必ず必要)、真ん中を3、重視しない1(不要)とした。

さらに、導入教育から行っていた、「学びの理解(春学期終了時)」を利用した。

2) 調査時期：2016年の11月に1年生の各クラスで実施した。

### 4. 分析方法

統計解析は、学科HPコンテンツアンケートについてカテゴリカルな主成分分析を実施し主成分得点と学びの理解については、スピアマンの正順位相関を用いた。HPの閲覧比較のための対応のある因子による一元配置分散分析およびボンフェロニーによる多重比較を行った。すべての統計的な有意水準は $0.05 < p$ とした。Webの解析には、Googleアナリティクスを用いた。解析ソフトはIBM SPSS Statistics Ver.22.0によった。

### 5. 倫理的配慮

なお本アンケートは成績に関係しないこと、データは研究の目的以外に使用しないことを説明し、調査協力については、質問紙の回答、提出をもって同意したものとみなし、未回収のものおよび当日欠席のものについては、追跡をしなかった。データは匿名化して解析し、その時点より撤回できないものとして

扱った。本研究については、聖徳大学ヒューマンスタディ委員会  
 会で承認された。データの取り扱いについては、倫理基準に従っ  
 た方法で処理された。

### Ⅲ. 結果

アンケート回収数は153名で回収率は92.7%、未記入データ等  
 を除き、有効数144名、有効率は87.3%であった。

Q 1 では、聖徳大学のホームページを受験前に見ましたか  
 (地図のみの閲覧は含まない)「はい」が78%、「いいえ」が22%で、  
 「はい」のうち「スマホで」が33%、「PCで」が71%、「両方で」が89%  
 であった。Googleアナリティクスによれば、ホームページリ  
 ニューアルから現在までは、IOSが50.1%、Windowsが27.0%、  
 Androidが20.8%、Macintoshが2.0%、その他0.1%であった。こ  
 れらの結果は、岡本尚志(2016)よりWindowsが約10%低下し、  
 IOSが約10%上昇し、他の種別に大きな変化はなかった。

Q 2 入試日程(オープンキャンパス含む) 4.4±1.0, Q 3 人間  
 栄養学科の紹介(カリキュラム・教育課程・授業名) 4.2±1.0, Q  
 4 教員の紹介(授業をする先生方の担当科目・専門分野の紹介)  
 2.9±1.2, Q 5 研究室の紹介(各研究室でどのような研究が行わ  
 れているか) 3.0±1.1, Q 6 卒業論文(卒業論文発表会の写真・  
 発表者の発表を終えての感想) 2.9±1.1, Q 7 授業の紹介(授業

風景の写真, コメント) 3.7±1.1, Q 8 学びの全体像(1年から  
 4年までの, 時系列の学び) 3.9±1.1, Q 9 年間行事(FC研修,  
 志賀高原研修, 聖徳祭, 海外研修旅行) 3.8±1.1, Q10学科の実  
 習・実験等施設の紹介(写真含む) 4.0±1.1, Q11取得資格情報(栄  
 養教諭, 中学校・高等学校家庭科免許) 4.4±0.9, Q12過去を含  
 む管理栄養士国家試験の合格率4.5±0.8, Q13国家試験対策の特  
 徴4.4±0.9, Q14就職先状況4.3±1.0, Q15卒業生からメッセージ  
 (就職した卒業生の声) 3.2±1.1, Q16大学院(人間栄養学研究科)  
 の進学情報2.7±1.1, Q17前回(前月)のオープンキャンパスの様  
 子2.8±1.1であった。(表1)

カテゴリカルな主成分分析のモデルの集約を示した。第1主  
 成分はCronbachのアルファ 0.934, 説明分散47.3%, 第2主成  
 分はCronbachのアルファ 0.560, 説明分散12.4%であった。(表  
 2)アンケート項目の成分負荷は、第1主成分として、学びの  
 全体像0.823, 授業の紹介0.817, 就職先状況0.777, 学科の実習・  
 実験等施設の紹介0.756卒業生からのメッセージ0.755, 年間行事  
 0.752, 国家試験対策情報0.730, 卒業論文0.692, 取得資格情報  
 0.687, 人間栄養学科の紹介0.684, 研究室の紹介0.670, 教員の  
 紹介0.667, 大学院0.664, 過去を含む管理栄養士国家試験の合格  
 率0.630, 入試日程0.619, 前回のオープンキャンパスの様子0.572  
 であった。(表3)

表1 HPアンケートの結果

	n=144		
	平均	±	標準偏差
Q 2 入試日程(オープンキャンパス含む)	4.4	±	1.0
Q 3 人間栄養学科の紹介(カリキュラム・教育課程・授業名)	4.2	±	1.0
Q 4 教員の紹介(授業をする先生方の担当科目・専門分野の紹介)	2.9	±	1.2
Q 5 研究室の紹介(各研究室でどのような研究が行われているか)	3.0	±	1.1
Q 6 卒業論文(卒業論文発表会の写真・発表者の発表を終えての感想)	2.9	±	1.1
Q 7 授業の紹介(授業風景の写真, コメント)	3.7	±	1.1
Q 8 学びの全体像(1年から4年までの, 時系列の学び)	3.9	±	1.1
Q 9 年間行事(FC研修, 志賀高原研修, 聖徳祭, 海外研修旅行)	3.8	±	1.1
Q10学科の実習・実験等施設の紹介(写真含む)	4.0	±	1.1
Q11取得資格情報(栄養教諭, 中学校・高等学校家庭科免許)	4.4	±	0.9
Q12過去を含む管理栄養士国家試験の合格率	4.5	±	0.8
Q13国家試験対策の特徴	4.4	±	0.9
Q14就職先状況	4.3	±	1.0
Q15卒業生からメッセージ(就職した卒業生の声)	3.2	±	1.1
Q16大学院(人間栄養学研究科)の進学情報	2.7	±	1.1
Q17前回(前月)のオープンキャンパスの様子	2.8	±	1.1

表2 主成分分析のモデルの要約

次元	Cronbach の アルファ	説明された分散	
		合計(固有値)	説明分散 (%)
1	.934	8.049	47.3
2	.560	2.103	12.4
総計	.962 <sup>a</sup>	10.152	59.7

a. Cronbach のアルファ合計は、固有値合計に基づいています。

表3 主成分分析 成分負荷

成分負荷	次元	
	1	2
Q2入試日程(オープンキャンパス含む)	.619	-.420
Q3人間栄養学科の紹介(カリキュラム・教育課程・授業名)	.684	-.282
Q4教員の紹介(授業をする先生方の担当科目・専門分野の紹介)	.667	.427
Q5研究室の紹介(各研究室でどのような研究が行われているか)	.670	.522
Q6卒業論文(卒業論文発表会の写真・発表者の発表を終えての感想)	.692	.467
Q7授業の紹介(授業風景の写真, コメント)	.817	.003
Q8学びの全体像(1年から4年までの, 時系列の学び)	.823	-.044
Q9年間行事(FC研修, 志賀高原研修, 聖徳祭, 海外研修旅行)	.752	.152
Q10学科の実習・実験等施設の紹介(写真含む)	.756	-.108
Q11取得資格情報(栄養教諭, 中学校・高等学校家庭科免許)	.687	-.482
Q12過去を含む管理栄養士国家試験の合格率	.630	-.550
Q13国家試験対策の特徴	.730	-.451
Q14就職先状況	.777	-.185
Q15卒業生からメッセージ(就職した卒業生の声)	.755	.187
Q16大学院(人間栄養学研究科)の進学情報	.664	.422
Q17前回(前月)のオープンキャンパスの様子	.572	.392

パイプロット図より, 次元の方向性, 軸の長さにより第1主成分に集約された。(図1)

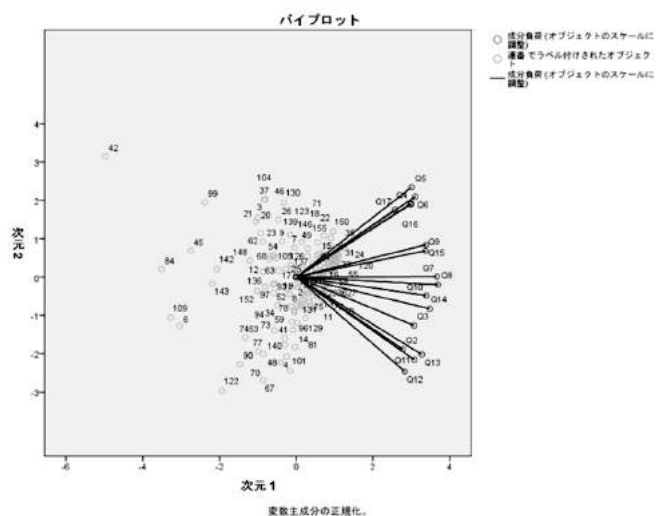


図1 主成分のパイプロット

第1主成分得点と学びの理解(春学期終了時)との正順位相関を示した。管理栄養士という職業に就くことを誇りに思う0.292( $p=0.00$ ), 大学教育について理解している0.276 ( $p=0.00$ ), グループワークでの積極性・協調性が0.260 ( $p=0.00$ )であった。(表4)

対応のある一元配置分散分析により,  $F=13.380$ , 自由度5,  $p<0.000$ であった。パーレットの球面性の検定  $p<0.004$ , その後のボンフェロニーの多重比較により, 人間栄養学科2017年3月から8月の平均ページビュー数を比較した結果, 3月と6月  $p<0.001$ , 3月と7月  $p<0.000$ , 3月と8月  $p<0.000$ , 4月と6月  $p<0.035$ , 4月と7月  $p<0.000$ , 4月と8月  $p<0.000$ , 5月と6月  $p<0.022$ , 5月と7月  $p<0.000$ , 5月と8月  $p<0.000$

の間に有意差に認められた。(表5)人間栄養学部HPコンテンツ別の閲覧状況(ページビュー)については, 3月から5月と4月から8月までのそれぞれ3か月間について, 記事一覧が224.63%増, 人間栄養学部人間栄養学科(トップページ)が46.60%, 就職・資格15.24%増, 学内実習実験施設が-22.58%, 研究領域が-22.17%であった。(表6)

#### IV. 考察

HPアンケートより, 管理栄養士国家試験に関する項目, 教諭などの資格取得, 入試日程, 就職先情報, 学科紹介などは, 予想通り重要度が高かった。一方, 大学院の進学情報, 教員の紹介, 卒業論文, 研究室の紹介については重要度中程度に留まった。学生意識では, 管理栄養士の国家資格を取り就職をすることが王道のようである。大学で研究をして卒論に興味を持つ学生が少ないと思われる。管理栄養士の養成校の中には, 卒論を設けていないところもあるが, 管理栄養士の資格を手に入れてからも卒論で得た研究に対する姿勢など, 卒業した現場でも問題解決力などプラスになる要因ではないかと思われる。

カテゴリー的な主成分分析によりアンケート項目を要約した結果, 第1主成分として, 学びの全体像, 授業の紹介, 就職先状況に集約された。HPについては, すべての項目を重視する成分が認められ, またパイプロット図より方向性がほぼ一方向となっていることから, 学科HPは表面的にはすべての要求を限られたなかで満足していることが予測され, 一歩踏み込んだHP内容で閲覧者の必要, 不必要がはっきりする内容も今後の検討事項として, 視野を拡げる必要もある。また学びの全体像(1年生から4年生までの時系列的な学び), 授業の紹介(授業風景の写真, コメント), 年間行事, 学科の実験・実習施設の紹介などの

表4 第1主成分得点と学びの理解

	$r_s$	p
n=144		
A.大学教育の理解		
評価：大学教育について理解している	0.276	0.001
1)大学で自分がやりたいことが、明確である	0.099	
6)大学で学ぶことが、自分の見識を広げるために重要であることがわかる	0.250	0.020
11)大学での学びと高校での学びの違いについて理解できる	0.227	0.005
16)聖徳大学で学ぶことを誇りに思っている	0.242	0.003
B.カリキュラムの理解		
評価：4年間のカリキュラムについて理解している	0.159	
2)自分が学びたい科目が明確である。	0.132	
7)専門教育科目の中で、専門基礎分野と専門分野の科目の区別できる	0.103	
12)卒業論文および資格取得関連科目について理解している	0.140	
17)カリキュラムマップでの科目の位置づけを理解できる	0.150	
C：自分の将来像の設定		
評価：将来の自分について(どのような管理栄養士になるか)	0.213	0.009
3)管理栄養士について夢が膨らんでいる	0.193	0.018
8)管理栄養士の職域(医療、福祉、学校、給食施設等)について理解できる	0.171	0.037
13)将来の管理栄養士として、自分が働いている姿をイメージできる	0.125	
18)管理栄養士の職場での役割について、自分が実践したいことがたくさんある	0.179	0.290
D：積極性・協調性		
評価：グループワークでの積極性・協調性	0.260	0.001
4)みんなで話し合うことは好きである	0.232	0.004
9)相手の話をよく聞ける	0.195	0.017
14)討論するとき、まとめ役を果たすことができる	0.106	
19)話し合いでは、他人の意見をメモすることができる	0.250	0.020
E.管理栄養士に関する基本コンピテンシー		
5)管理栄養士という職業に就くことを誇りに思う	0.292	0.000
10)自分は管理栄養士という職業に向いている	0.078	
15)食を通して人々の健康と幸せに寄与したい	0.141	
20)管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい	0.190	0.021

表5 人間栄養学科2017年3月から8月の平均ページビュー数

						(頁)
調査日数	平均	標準偏差	最小値	最大値		
3月 31	222 ±	52.3	143	346	6月：p<0.001, 7月：p<0.000, 8月：p<0.000	
4月 30	235 ±	59.4	164	406	6月：p<0.035, 7月：p<0.000, 8月：p<0.000	
5月 31	230 ±	79.8	70	388	6月：p<0.022, 7月：p<0.000, 8月：p<0.000	
6月 30	294 ±	71.6	154	420		
7月 31	343 ±	84.7	182	520		
8月 30	348 ±	91.3	150	567		
平均	279 ±	90.6	70	567		

表6 人間栄養学部HPコンテンツ別の閲覧状況(ページビュー)

				(件)
		2017/03/01-05/31	2017/06/01-08/30	変化率
人間栄養学部	人間栄養学科(トップ)	10,611	15,556	46.60%
	記事一覧	613	1,990	224.63%
	就職・資格	1,483	1,709	15.24%
	カリキュラム・授業科目	1,600	1,586	-0.88%
	学部概要	1,167	1,188	1.80%
	学士力向上(管理栄養士国家試験対策)	864	797	-7.75%
	在校生・卒業生からのメッセージ	722	652	-9.70%
	学部長メッセージ	603	567	-5.97%
	研究領域	618	481	-22.17%
	学内実習実験施設	527	408	-22.58%

成分負荷値が高かった。本学は定員が200名であり、調理実習施設、実験施設も専門な施設であり、数も多くあるので、他校との差別化する意味でも施設のPRは重要ではないかと思われる。(表3)

第1主成分は、HPでの、学びの全体像、授業の紹介、就職状況他、学科ページに積極的な意識をもつ成分である。第1主成分得点と「学びの理解(春学期終了時)との相関を示した。第1主成分得点の高いものは、HPの閲覧に管理栄養士という視点から意欲の高い者であり、学びの理解評価の大項目としてA. 大学教育の理解、D.積極性・協調性、E. 管理栄養士基本コンピテンシー、C. 自分の将来像との相関が認められた。特に5)管理栄養士という職業に就くことを誇りに思う0.292 ( $p=0.00$ )と高く、将来像がはっきりと描けていると思われる。田村幸子(2011)前述のように、大学のWebサイトは受信者が発信者となる必要があり、学生が構築する内容などの考慮も将来は必要である。このことより、学科ページに積極的意識と管理栄養士の職業意識に相関がみられたことは、今後学生からの学科HPの情報を発信させる人材の開発などの意味で有用な結果と判断できた。

HPの閲覧の意欲と関係の得られなかった項目として、カリキュラムの理解がある。学生の中には、カリキュラムとなると、ある程度学習が進まないで明確な理解に乏しいことが予想される。ゆえに1年次の導入教育においては、カリキュラムを理解させることは難しい可能性を否定できない。

閲覧の現状については、3から5月までと6月から8月まででは、アクセス数が有意に増加した、これは記事の作成頻度を増加させたことが理由である。また記事一覧、人間栄養学部 人間栄養学科(トップ)、就職・資格が増加しているが、研究領域、学内実習実験施設が減少した。これらより、リニューアル当時(2017年1月31日)の後では、研究領域なども閲覧の割合がある程度あったことより、入学方式が現在はAOなどが多く就職等に興味が高いのではないかと思われる。2月から3月は、受験が落ち着き、本学を希望する学生としては、大学での研究や卒業論文に興味があった可能性がある。2017年の3月から8月の学科Webの閲覧状況と主成分分析で得られた本学1年生(2016年次)の閲覧指向は、時間的差があるものの一致する部分が認められた。主成分分析より得られた集約された成分負荷値の高い、授業の紹介0.823、学びの全体像0.817、就職状況0.777は学科Webサイトであるカリキュラム・授業科目、学部概要、就職・資格で表現されており、3月から8月まですべての期間で閲覧状況は1,000ページを超えている。従って学生の目線からのWebサイト指向の集約は、現在の学科Webにおいても反映されている。

また安西祐一郎(2016)は私立大学教育協議会教育改革ICT戦略大会での三つのポリシー(入学選抜・カリキュラム・学位授与)省令化による内部保証の課題において、アドミッションポリシーは、学部・学科等の教育理念に基づくデプロマ・ポリシー、カリ

キュラムポリシーに基づく教育内容を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果を示すものでなければならないと述べており、高校の教員はこのような流れのなかで、高校生の大学進学を支援する必要性を語っている。従って高校教員がその高校生の志願する大学のアドミッションポリシーを知らなければならず、大学は知らせる必要があることは明白である。そこでアドミッションポリシーは多くの大学で学科の編制などの変化で情報の発信はWebが好ましいと記している。高校教員がWebで某大学のアドミッションポリシーにどれだけ効率の良い動線で導けるかが、Webの真価となってしまうことは十分考慮すべきであると述べている。これらより本学科のWebサイトでは、アドミッションポリシーは学部概要に含まれているが、下層構造となっている。調査全月に渡り、閲覧状況は1か月平均で1,000ページを上回っているが、アドミッションポリシーのみのページビュー数を把握するすべがない。今後の更新の際にはこのことを視野に含める必要がある。高橋章ら(2013) Web上の技術的な問題点をなくすことはSEO(Search Engine Optimization)にも有効であり、特にWebの定期的なPDCAサイクルを意識することが必要であると報じている。本学科もSEO対策の一貫としてリスティング広告に踏み切った。このためには検索単語が有用であるのは必須である、中尾豊(2015)コストの掛からない良い単語を見つけることも必要であると述べており、なお一般には良いキーワードに基づく共起語が必要であるとのことである。今回の学生のHPアンケートに解析に値しないが付帯した項目として、“国家資格”“合格率”が得られた。阿部圭司(2013)で、リスティングについてコンバージョン計測の必要性と特徴を知ると述べているが、実際、大学の入学までの過程は、一般の購買とは違い、コンバージョンの計測は難しい。近年、出願をWebのみで行う大学が増えてきている。もし全学がそのような方式になったと理解すれば、学科Web閲覧状況、資料請求、出願、合格などを軸として、入学方式との関連は最低調査しなければならないことは今後の課題である。

#### 引用文献

飼原壽夫, 学科Webサイトの構築-実施手段の選択と評価の方法-, 大阪樟蔭女子大学研究紀要, 2013, Vol. 3, 215-222

全国大学サイト・ユーザビリティ調査2016-2017, 株式会社日経BPマーケティング, 2016, <https://consult.nikkeibp.co.jp/branding/solutions/univ-pc-site-ux/>

田村幸子, 学生目線による本学公式サイトユーザビリティ評価, 九州産業大学総合基盤センター COMMON, Vol.31, 2011, 18-26

岡本尚志, 学科Webサイトリニューアルにおけるアクセス解析, 研究紀要聖徳大学, No.27, 2016, 95-102

安西祐一郎, 三つのポリシー(入学選抜・カリキュラム・学位授与)省令化による内部保証の課題, 平成28年度 教育改革ICT戦略大会資料, 公益財

団法人私立大学情報教育協会, 1-45

高橋章, 上村健二, 学科Webページの運用評価と改定, 長岡工業高等専門学校研究紀要, 2013, 第49巻, 13-18

中尾豊, 成約率が上がる 儲かる 検索キーワードの見つけ方講座, ソーテック社, 2015, 16-18

阿部圭司, リスティング広告—成功の法則—, ソーテック社, 2013, 41-44